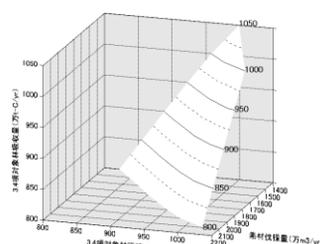


### 森林炭素蓄積量・CO2吸収量の推定

京都議定書・パリ協定の下、森林吸収源による国レベルの森林CO2吸収量の予測



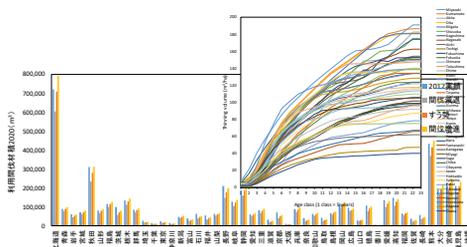
### 温室効果ガスクレジット活用

森林吸収CO2から温室効果ガスクレジットを創出しカーボンオフセット等に活用

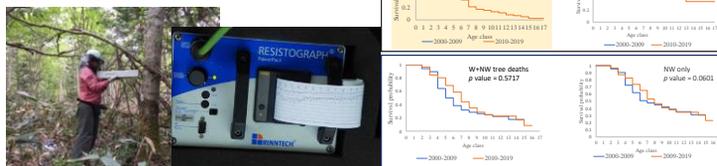


### 木材生産量や樹木枯死量の予測

都道府県別の間伐材生産量を予測し、それらを積み上げて全国スケールの燃料材供給量を予測



### 天然林の樹木群全体の生存曲線を推定



近年、世界各国がパリ協定の下でCO2排出削減を進める中、私たちは、持続可能な森林管理を通じて、生成エネルギー負荷の小さい生産資材である木材の活用や、再生可能なエネルギー源である木質バイオマスの燃料活用を推進することで、地球規模の温暖化緩和や低炭素社会の実現に貢献することができます。

こうした理念のもと、多様な時空間スケールにわたる森林環境情報の把握や持続可能な森林管理の探求を大きな研究テーマとして捉え、森林炭素蓄積量・CO2吸収量の推定、温室効果ガス（森林吸収CO2）クレジット取引、木材生産量や樹木枯死量の予測、環境・経済・社会的機能のバランスを考慮した森林管理計画の策定といった個別研究テーマに取り組んでいます。